

米ブラックロック

「投資社会的役割を考慮」

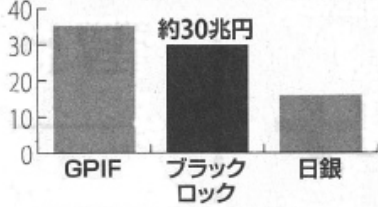
資産運用会社450社に書簡

世界最大級の米資産運用会社「ブラックロック」の日本法人が27日、投資先の国内約450社に対し、「企業の社会的役割」を明確に示すよう求める書簡を送った。企業の成長には利益の追求だけでなく、社会への貢献が必要とし、こうした観点から投資先を選ぶ姿勢を示した。

ブラックロックは、各国の年金や保険会社などから資金を預かって、株式や債券などに投資する世界最大規模の資産運用会社だ。2017年12月末時点の運用資産残高は約6・28兆円（約670兆円）に上る。

日本株はグループで約30兆円

●主な機関の日本株保有額



※GPIF、日銀は17年3月末時点。ブラックロックは17年12月末時点

兆円分保有しており、日本銀行や公的年金を運用する「年金積立金管理運用独立行政法人」(GPIF)に匹敵する規模となっている。

日本の「大株主」として企業との対話を進めるため、年に1度、主な投資先に米本社のラリー・フィンク会長兼CEO（最高経営責任者）の書簡を送っている。

フィンク氏は今回の書簡で、昨年の株式市場は堅調だったが、「将来への人々の失望感や不安もかつてない」と警鐘を鳴らした。

また、「アクティビスト（モノ言う株主）の台頭や無益な議決権争奪戦の理由は、企業が長期戦略を十分に説明してこなかったことが背景にあるのではないかと」と警鐘を鳴らした。

その上で、「企業が継続的に発展するためには、優れた業績のみならず、社会にいかに関与していくかを示さなければならない」との考えを伝えた。退職後の備えなど従業員への不安を拭くような活動や技術革新への対応を想定したとみられる。

「企業理念明確に」



日本法人の井澤吉幸会長兼CEO写真に書簡の要点などを聞いた。

「過去の書簡と比べ、強調した点は、
「企業の存在意義や理念は何なのかを明確にすることを求めた。事業の社会的意義を示せなければ、会社は長続きしない。」

ブラックロック日本法人
井澤吉幸 会長兼CEO

社会的意義の例として、24時間営業のコンビニは地域の防犯インフラ（社会基盤）になりつつある。生命保険会社が健康寿命の対策に取り組むことも珍しくなくなった」
「企業の長期戦略の重要性を訴える背景について。
「我々は長期保有がメインの株主だ。企業の持続的な成長のため、数年にわたる戦略を作っていたらいい。中期経営計画の場合も、中身を総括し、次の計画につなげることが重要だ」